

広告の可能性は十人十色



JAPAN ADVERTISING FEDERATION IN
SHIZUOKA 2026

第74回
全日本広告連盟静岡大会

大会報告書

開催：2026年 5月13日^水、14日^木

主催：第74回全日本広告連盟静岡大会組織委員会 公益社団法人全日本広告連盟

▶ 全日本広告連盟静岡大会 概要

▶ タイトル ▶	第74回全日本広告連盟静岡大会
▶ 開催日 ▶	2026年5月13日（水）
▶ 会場 ▶	グランシップ ホール大地
▶ 大会参加登録者数 ▶	978名

大会テーマ

「広告の可能性は十人十色」

■テーマへの思い

「知らせる」から「繋げる、続ける」そして「育てる、進める」へ、広告の役割は私たちの想像を超えたスピードで進化しています。ミレニアムから四半世紀をこえ、私たちは時代の岐路に立たされています。広告という概念を大きく俯瞰で捉え、何をすべきかを考える。新しい社会のために提案し実行し続けましょう。

大会ロゴマーク

■デザインコンセプト

富士山の姿は天気、時間、位置、角度、様々な要因で変化します。その時その場所にいた人々が、それぞれの事情で、富士山への思いを胸に刻む。

私が見ている富士山とあなたが見ている富士山は同じ富士山なのに、表現すると違う富士山になっているのはなぜだろう。広告も同じではないでしょうか？

既成概念にとらわれず自由に発想してみる。

視点を変え、新しい価値を見つけ出す。新しい未来を創造する。同じ商品でも、伝える人、伝える場所、伝える時が違えば違う価値が生まれる。

広告が持つクリエイティビティを静岡から発信したい。その思いを、「十色の富士山」で表現。

十色の富士山が集まると「真上から見た富士山」にも見えるようにデザイン。

富士山は、青色で横から見た姿を描くという既成概念を取り払ってみましょう。



JAPAN ADVERTISING FEDERATION IN
SHIZUOKA 2026

▶ 大会プログラム

1日目 5月13日 (水)

■記念式典 グランシップ ホール大地

12:30	開場・受付		
13:20	開会宣言	全日本広告連盟静岡大会 会長	大須賀 紳 晃
	挨拶	全日本広告連盟 理事長	大 平 明
	来賓祝辞	静岡県知事	鈴木 康 友 様
	来賓祝辞	静岡市長	難 波 喬 司 様
13:50	第14回全広連日本宣伝賞表彰		
14:15	第5回鈴木三郎助全広連地域広告大賞表彰		
14:40	次年度開催地ご挨拶		福島広告協会
15:00	記念講演会 「広告とコミュニケーション」		
		明治大学文学部教授	齋 藤 孝 氏
16:05	閉 会		

■懇親会 グランディエール・ブケトーカイ 4Fシンフォニー

17:30	挨拶・乾杯	静岡県広告協会 理事長	中 村 泰 昌
-------	-------	-------------	---------

2日目 5月14日 (木)

■エクスカーショ

視察見学会 ・静岡市コース
・浜松市コース
・伊豆コース

■親睦ゴルフ会

富岳カントリークラブ

■挨拶

開会宣言

大須賀 紳晃 静岡大会会長

2010年以来16年ぶりとなる全広連大会を静岡で開催できますことを、大変うれしく思います。本年は、浜松高等工業学校（現・静岡大学工学部）において、世界で初めてブラウン管に文字を映し出す実験が行われてから100年という節目の年にあたります。

映像技術の礎が築かれてから1世紀を経て、放送メディアは大きく発展し、さらにデータやAIの進化によって情報環境は大きく変化しています。広告もまた、これまで以上に高度な設計が可能な時代となりました。

一方で、「何を伝えるべきか」という本質的な問いは変わりません。本大会が、テクノロジーを効果的に活用しながら、人の思いや価値をいかに深く伝えるかを皆さまとともに考える機会となれば幸いです。



大平 明 全日本広告連盟理事長

本年度の全広連大会は開催地の決定が難航する中、静岡県広告協会の「大会の灯を絶やしてはならない」という強い思いのもと、開催をお引き受けいただきました。改めて深く感謝申し上げますとともに、本大会の開催に向けて準備を重ねてこられた関係者の皆さまのご尽力に敬意を表したいと思います。

今大会は「広告の可能性は十人十色」をテーマに開催されます。生成AIの活用が進み、広告表現を取り巻く環境は大きく変化しています。しかし、広告の持つ魅力や人の心を動かす力の源泉は、人間の創造力と多様な価値観にあると考えます。

今後も全広連大会を継続・発展させていくため、広告業界が一堂に会する意義を改めて見つめ直し、本大会のあるべき姿を皆さまとともに考えてまいります。また、地域から日本を元気にする取り組みを一層推進してまいります。

■来賓祝辞



静岡県知事 鈴木 康友 様

全広連大会のご盛会を心よりお祝い申し上げるとともに、全国から静岡にお越しの皆さまを歓迎いたします。

本県では今年、新たな県総合計画「しずおかウェルビーイングプラン」を策定しました。県民幸福度調査では、自然や健康に対する満足度が高い一方、所得や事業創造、移動・交通の分野には課題が見られました。ものづくりを中心とした産業基盤を生かしながら、新たな事業創出への取り組みを一層進めてまいります。その一環としてスタートアップ支援を強化しており、認定ベンチャーキャピタルによる投資と連動した支援制度を通じて、県内外の有望な企業の成長を後押ししています。

今後も知恵と行動力を結集し、全国をリードする活力ある静岡県の実現に向けて取り組んでまいります。

静岡市長 難波 喬司 様

全国から静岡にお越しいただいた多くの皆さまを歓迎いたします。また、表彰を受けられる皆さまにお祝い申し上げます。

SNSの普及をはじめ、広告を取り巻く環境や役割は大きく変化しています。行政の仕事では、社会全体の力を引き出し、共感や共鳴を広げながら地域の発展につなげていくことが重要であり、そのためには「伝わる」ことが不可欠です。

企業活動においても、広告を通じて信頼される姿勢や行動を適切に伝えていくことが求められています。社会に大きな影響を与える広告の役割を改めて見つめ直し、本大会が広告を通じた社会の理解促進と適切な行動の創出について議論を深める有意義な機会となることを期待しています。



第14回全広連日本宣伝賞

■松下賞

株式会社ニトリホールディングス 代表取締役会長兼 CEO 似鳥 昭雄（にとり あきお）様

北海学園大学経済学部卒業後、1967年に札幌で似鳥家具店を創業、1972年に似鳥家具卸センター株式会社（株式会社ニトリ）を設立し、1978年同社社長、2010年株式会社ニトリホールディングス社長を経て2016年同社会長に就任。2005年に似鳥国際奨学財団を設立し、代表理事として日本国内のみならず海外の現地大学生への奨学支援を行うなど、世界各国の人材育成にも尽力。2008年日本経団連理事、2010年日本チェーンストア協会副会長等公職を歴任。2005年藍綬褒章、2015年レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受章。「暮らしの豊かさを世界の人々に提供する」という理念のもと、ニトリグループを日本有数の製造小売業へと育て上げ、現在は会長兼CEOとして経営戦略を牽引しています。商品企画から製造・物流・販売までを一貫して自社でプロデュースすることで低価格と高品質を両立させ、その価値を端的に表現したコピー「お、ねだん以上。」は、企業姿勢を社会に浸透させた象徴的なフレーズとして広く定着しました。生活提案型ブランドを確立し、消費者の暮らしに新たな基準を提示したことに加え、後進の育成や社会貢献にも尽力し、経営者としてのみならず社会的リーダーとして高い影響力を発揮している点が高く評価されました。



■正力賞

ぴあ株式会社 代表取締役社長 矢内 廣（やない ひろし）様

中央大学在学中の1972年に月刊情報誌『ぴあ』を創刊、1974年ぴあ株式会社を設立し社長に就任。1984年に『チケットぴあ』をスタート。（一社）PFF（ぴあフィルムフェスティバル）理事長、（一社）日本雑誌協会理事、（公財）新国立劇場運営財団評議員、日本アカデミー賞協会組織委員会委員、（公財）ユニジャパン評議員、（一財）セガサミー文化芸術財団評議員、学校法人玉川学園評議員、東京藝術大学学長選考・監察会議委員など、文化・メディア関連の公職を務める。2012年には（一社）チームスマイルを設立（2022年に終了）、代表理事として東日本大震災の被災地復興支援活動にも取り組んだ。2004年モンブラン国際文化賞、2017年渡辺晋賞を受賞。『ぴあ』の創刊以来、エンタテインメント分野における情報発信の在り方を革新し、生活者と文化・催事を結びつける新たな情報流通の仕組みを構築。チケット流通事業をはじめライブ・エンタテインメント領域において幅広く事業を展開し、エンタテインメント産業全体の発展を牽引した。また、デジタル技術の進展を見据えたプラットフォーム展開により、情報提供やサービスの利便性を飛躍的に向上させるなど、情報流通の高度化と持続的な発展に大きく寄与されました。さらに、集客エンタテインメントを通じて地域活性化や地方創生にも貢献した。長年にわたり情報・文化分野の発展に多大な影響を与えた功績が高く評価されました。



■吉田賞

学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学 学長 田中 里沙（たなか りさ）様

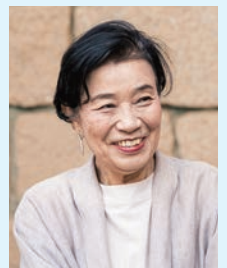
学習院大学文学部英米文学科卒業。『宣伝会議』の編集長、取締役副社長・編集室長などの要職を歴任。2012年に学校法人先端教育機構「事業構想大学院大学」の教授となり、2016年に同学学長に就任。専門は、広報、マーケティング、ブランディングなど。「クールビズ」「育業」ネーミング、東京2020エンブレム、大阪・関西万博キャラクター、G7広島サミットロゴ等の審査員、政府広報アドバイザーのほか、国の審議会等委員を務める。2022年より、外部有識者として鈴木三郎助全広連地域広告大賞選考委員を務めていただいております。事業構想大学院大学学長として、社会人向け専門職大学院における事業構想教育を先導。新規事業創出、企業変革、地域活性化といった現代社会が直面する複合的課題に対し、構想力を核とした教育体系を確立し、社会の一翼を担う事業を創出する人材を育成しています。また、全国の自治体・企業と連携し脱炭素化や地域持続性をテーマとするプロジェクトを数多く推進、教育研究と社会課題解決を結びつける先進的な取り組みとして注目されています。さらに、政府委員や各種審査において民間の視点から公共政策や社会的ブランディングにも貢献するなど、学術と実務、教育と社会を橋渡しするリーダーとしての功績が高く評価されました。



■山名賞

石岡怜子デザインオフィス主宰 アートディレクター 石岡 怜子（いしおか りょうこ）様

多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業後、デザイン会社を経て独立。西武百貨店渋谷店等の立体イラストレーションを10年にわたり手がける。広告キャンペーン、エディトリアルデザイン、パッケージデザイン、ファッションショーのセットデザインなどの領域で幅広く活動し、新潮社、セイコー、サントリー、キリンビール、キリンビバレッジ、日本コカコーラ、AGF、FUJIFILM、マツダ、トヨタ自動車、全日空、SONY、パナソニック、カネボウ化粧品、花王、湖池屋、アルフレックス他、数多くのクライアントを担当。ADC最高賞、ADC優秀賞、日本ディスプレイデザイン協会最優秀賞・奨励賞、広告電通賞、ADC Hall of Fame など受賞。2020年、姉・石岡瑛子氏の回顧展を総合プロデュース。2022年より渋谷区立松濤美術館館長に就任。アートとデザインの領域が拡張し相互に影響しあう現代において、アートをより身近に感じられる場として、美術館の新たな価値を生み出すブランディングに挑戦しています。アートディレクションの分野において長年にわたり第一線で活躍し、独創的かつ時代性を鋭く捉えた表現で日本のビジュアルコミュニケーションの発展に多大な貢献をするとともに、その知見を活かしてアートの領域においても社会や文化に新たな価値観を提示し続ける、その継続した活動が高く評価されました。



■特別賞 公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 様

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の開催準備、運営を通じて、万博の実現と成功に大きく貢献した。アフターコロナ初の万博として、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる本万博開催の意義は高まった。158か国・地域および7つの国際機関が参加し、国内で開催された登録博（5年に1度開催される大規模な万博）としては過去最多規模の国際的連携を実現しました。世界の課題や先端技術、文化が、パビリオン展示、イベントなどを通じて発信されました。会期184日間を通じた来場者数は2,900万人を超え、国内外からの多くの関心を集めた。参加国、国・自治体、企業さらには来場者など、多様な主体が知見を持ち寄り、みんなで万博を創り上げたことも本万博の特徴。世界最大の木造建築物「大屋根リング」は、「多様でありながら、ひとつ」という理念を象徴した。また、SDGsのゴールに貢献する万博として「グリーンビジョン」を掲げ、持続可能性に配慮した運営を行った。万博を成功に導いた以上の貢献を高く評価されました。（写真提供：2025年日本国際博覧会協会）



受賞者謝辞

松 下 賞

株式会社ニトリ
ホールディングス
代表取締役会長兼
CEO

似鳥 昭雄 様
(代理 山本哲夫 様)

栄えある松下賞を頂戴し、誠にありがとうございます。長年にわたり広告活動を支援してくださった多くのパートナー企業の皆様、そして日頃よりニトリを応援してくださるお客様に、心より御礼申し上げます。私どもニトリは「暮らしの豊かさを世界の人々に提供する」という創業以来の志のもと、家具・インテリアを通じてお客様の暮らしをより良くすることを目指してまいりました。広告活動においても、商品の魅力を伝えるだけでなく、「この価格でこんな暮らしができる」という未来を描き、お客様の暮らしに寄り添う表現に挑戦してきました。創業地・北海道での店舗づくりから始まり、商品企画・製造・物流・販売を一貫して担うSPAモデルを築くことができたのも、社員一人ひとりの努力と、多くのパートナー企業の皆様の支えがあったからこそです。海外での生産拠点づくりや出店など、挑戦の連続でしたが、その根底には「より良い暮らしを、より多くの人へ届けたい」という思いがありました。今回の受賞を励みに、今後も広告を通じてお客様の生活をより豊かにする提案を続け、社会に必要とされる企業として成長してまいります。

正 力 賞

びあ株式会社
代表取締役社長
矢内 廣 様

名誉ある、そして歴史ある正力賞をいただき、心より御礼申し上げます。1972年に情報誌『ぴあ』を創刊して以来、早いもので54年が経ちました。2011年に休刊となるまで、本日ご臨席の皆様には大変お世話になり、多くの広告出稿をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。その後、チケット事業を中心に歩んでまいりましたため、広告を大きく展開する機会は多くありませんでしたので少々心苦しくも存じますが、本年、新たなステートメント「Life is Pure.」を発表し、新聞全面広告を展開いたしました。この広告は、後に読売広告大賞で優秀賞を受賞することができました。お陰さまで、コロナ禍で大きな打撃を受けたエンターテインメント業界も、ようやく力強さを取り戻しつつあります。今回の受賞を大きな励みとして、今後も社業の発展に努めてまいります。本日は誠にありがとうございました。

吉 田 賞

学校法人先端教育機構
事業構想大学院大学
学長

田中 里沙 様

歴史ある素晴らしい賞を頂戴し、誠にありがとうございます。ご指導くださる諸先輩方、日頃よりご支援いただいている皆様に、心より感謝申し上げます。宣伝会議の仕事を通じ、本日ご臨席の皆様から多くのお話を伺ってまいりました。優れたコピーやデザイン、広告作品は形として残りますが、その背景にある判断や企画の過程は、なかなか記録に残りません。私は編集を通じてその思いを後世に伝え、広告やメディア業界の魅力を広く伝える役割を担いたいと考えてきました。吉田秀雄氏は、広告を科学として捉え、経済活性化の象徴としてその可能性を切り拓かれました。また、人材育成にも早くから力を注がれました。私自身も、社会構想・事業構想の普及と人材育成に取り組む中で、新たな事業を社会に広めるためには、広告とメディアの力が不可欠であると強く感じています。今後もこの力をお借りしながら、社会や地域に貢献してまいりたいと思います。

山 名 賞

石岡怜子デザイン
オフィス主宰
アートディレクター
石岡 怜子 様
(代読)

一本のコピー、一枚のヴィジュアルで、どこまで人に刺さる表現が出来るかがポイントである一方で、広く共有できる平易なメッセージ性が重要であると思って、何十本ものラフを作る日々を送っていました。自分の道を見つけるまで、右往左往していた時期は苦しかったと同時に楽しかったです。ひとりの表現者として自立出来るよう、自分のスタイルを見つけるのに多くのエネルギーを追う日々は今でも至福の時間です。

(2026年4月 石岡怜子)

特 別 賞

公益社団法人
2025年日本国際
博覧会協会 様
(登壇 水谷 徹 様)

このたびは特別賞を賜り、誠にありがとうございます。今年4月に開催した開幕1周年イベントでは、3万人の定員に対し、14倍となる40万人もの応募をいただきました。夢のような反響でした。一方で、万博は決して順風満帆なスタートではありませんでした。能登半島地震の発生、会場建設の遅れ、メタンガス問題など、厳しい状況の中での船出となりました。「8割が万博に行きたくない」とまで言われる中でも、職員は万博の成功を信じ、懸命に努力を重ねてまいりました。その支えとなったのは、158の国・地域の皆様の思い、そして広告・メディア関係者の皆様による力強い発信でした。皆様が万博の魅力を広く伝えてくださったことで、世の中の見方は大きく変わりました。広告や表現の力が、本来の価値や可能性を社会に届ける大きな力であることを、改めて実感しております。万博の本当の価値は、20年後、30年後に振り返ったときに評価されるものだと思います。ここで生まれた技術や文化、人と人との出会いが未来へとつながり、「あの万博には大きな意義があった」と思っていただけのことこそ、本当の成功ではないでしょうか。これからも皆様のお力をお借りしながら、未来への希望をつないでまいります。



第5回 鈴木三郎助全広連地域広告大賞

最優秀賞及びキャンペーン部門賞

受賞者 岩手日報社

受賞作 最後だとわかっていたなら教育プログラム
3月11日を大切な人に「ごめんね」を言う日にも

推薦協会 岩手広告協会

受賞理由

全国で災害が続く中、東日本大震災から15年が経ち、記憶の風化や未経験世代への継承が課題になると共に、教育現場では、震災を知らない教員の増加や復興教育を担う負担感、慢性的な多忙さが指摘されています。こうした状況を受け、2017年より継続する広告企画を教材として再構築し、学習指導案を含むパッケージとして無償提供しました。これらは全国90以上の学校・団体に活用され、大きな広がりを見せています。また、3月11日を「大切な人にごめんねを伝える日」として呼びかけた施策では、関連動画が約700万回再生され、多くの投稿が寄せられるなど反響を生みました。

「震災の記憶を風化させない」という強い決意のもとで、広告を一過性の表現にとどめず、教育インフラへと発展させた点が高く評価されました。

最優秀賞受賞者謝辞

岩手日報社 総合ビジネス局次長 柏山 弦 様

2017年から続いているこの企画は、昨年から教育プログラムとして展開しております。これまで活動を支えてくださった多くの協力企業の皆様、ご協賛いただいている広告主の皆様、そして岩手県広告業協会の皆様に、心より感謝申し上げます。

また、教材化にあたって佐賀の光武正夫先生、岩手の紺野好弘先生に多大なるご協力をいただきました。教材をご活用いただいている全国の教育関係者の皆様にも、厚く御礼申し上げます。

さらに、これまで各新聞社や放送局をはじめ、東北紙を含む地方紙の皆様、放送局の皆様にも数多く取り上げていただき、多くのお力添えをいただきました。誠にありがとうございます。

何よりも取材にご協力いただいている被災者ご遺族の皆様への感謝は尽きません。

私にとって震災後のさまざまな取り組みはすべて地続きの活動です。これまで、そして今も進行している岩手日報の活動に関わってくださっている広告主様、広告会社様をはじめ、すべての関係者の皆様に心から感謝申し上げたいと思っております。





■プリント部門賞

受賞者：中国新聞社・長崎新聞社・協賛各社
 受賞作：PEACE FOREVER PROJECT
 推薦協会：広島広告協会

■プリント部門賞

受賞者：小泉八雲・セツのドラマをイカして
 バケる松江推進協議会
 受賞作：あげ、そげ、ばけ。小泉八雲とセツが
 出会ったまち松江
 推薦協会：山陰広告協会

■フィルム・オーディオ部門賞

受賞者：トヨタ自動車(株)
 受賞作：あおり運転 囲み取材
 推薦協会：愛知広告協会

■フィルム・オーディオ部門賞

受賞者：イオンフィナンシャルサービス(株)
 受賞作：AEON Pay 支払いドラマ
 推薦協会：福岡広告協会

■キャンペーン部門賞

受賞者：広島県
 受賞作：OK!!広島（おいしいけえ、ひろしま）
 推薦協会：広島広告協会

■チャレンジ部門賞

受賞者：(株)秋田魁新報社
 受賞作：秋田活性化中学生選手権
 推薦協会：秋田広告協会

■チャレンジ部門賞

受賞者：(株)マリモ
 受賞作：片手でスリリとはける くつした ほ
 のん
 推薦協会：愛知広告協会

■デジタルコミュニケーション特別賞

受賞者：(株)ワイドレジャー
 受賞作：でっかい学校
 推薦協会：福岡広告協会

次期開催 ふくしま大会 ご挨拶



FUKUSHIMA 2027

福がひらく、あしたの広告。
～ふくしまが灯す、広告の未来～



福島広告協会 会長
渡邊 博美 様

全日本広告連盟静岡大会の盛大なご開催、誠にありがとうございます。私は、第75回全日本広告連盟ふくしま大会組織委員会会長の渡邊博美です。

次回の全広連大会は、2027年5月、福島県で開催します。福島では2020年にも大会を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催となりました。本来お迎えしてお伝えしたかった福島の魅力を、今度こそ皆さまに直接体感していただきたいと願っております。

福島県は、会津・中通り・浜通りの三地域がそれぞれ異なる個性と産業を持ち、豊かな自然や歴史資源、農産物、日本酒など多彩な地域ブランドを有しています。また震災と原発事故を乗り越え、復興の先に向けた新たな挑戦が進んでいます。

広告は、地域や企業の価値を社会に届け、新たな需要と交流を生み出す力を持っています。福島には、まだ十分に伝えきれていない魅力や可能性が数多く存在しており、広告の力によってさらに価値が高まる地域であると考えています。

2027年のふくしま大会が、全国の皆さまと地域が出会い、新たな価値創造の場となることを期待しております。ぜひ現地で、福島の空気と人の温かさを体感してください。2027年5月、福島でお会いできることを楽しみにしております。

講演テーマ 広告とコミュニケーション

講師 齋藤 孝 氏 明治大学文学部教授

講師略歴 さいとう・たかし 1960年生まれ。

静岡市出身。静岡高校－東京大学法学部卒。同大学院教育学研究科博士課程を経て現職。専門は教育学、身体論、コミュニケーション技法。『声に出して読みたい日本語』（草思社・毎日出版文化賞特別賞）がシリーズ260万部のベストセラーになり、日本語ブームの火付け役に。著書累計出版部数は1000万部を超える



～心揺さぶるメッセージを～

広告は時代ごとの「常識のプール」であり、受け手に「意味」と「感情」を伝えるコミュニケーションです。意味は主に言葉が、感情は映像や音楽が担い、それらを組み合わせることで人の心を動かし、行動へと導いていきます。

広告をつくる人には、移り変わる時代の常識や価値観を的確に捉える感性が求められます。さまざまな制約がある中でも、品格を保ちながら人々の心を捉える表現を生み出すことがクリエイターの腕の見せどころです。

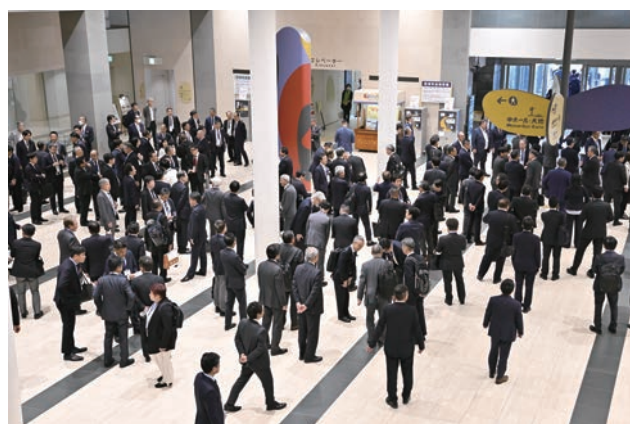
広告は人やモノ、お金を循環させる「心臓のポンプ」のような存在です。優れた広告やコピーは商品を売るだけでなく、その先にある価値や世界観を伝え、人々の心を豊かにする力を持っています。そのため広告には品性や品格が求められるのです。

さらに、言葉は精神文化を受け継ぐ大切な役割を担っています。私たちが桜に特別な思いを抱くのも、和歌などを通じて桜に込められた感情が文化として受け継がれてきたからです。広告もまた、文化の厚みを持った言葉を伝えることで、人々の心を豊かにし、精神文化の継承につながるのではないのでしょうか。

日本には俳句や和歌など、短い言葉やイメージで深い意味や感情を表現する豊かな文化があります。その強みを生かしながら、広告業界には「ミッション（使命）・パッション（情熱）・ハイテンション（元気）」を持って、これからも人々の心を揺さぶるメッセージを生み出してほしいと思います。

大会風景

会 場：グランシップ ホール大地



第14回全広連日本宣伝賞受賞の紹介



第5回鈴木三郎助全広連地域広告大賞の受賞作品を展示



司会の静岡放送・
野路毅彦アナウンサーと
静岡第一テレビ・
澤井志帆アナウンサー

懇親会風景



会 場：グランディエール・ブケトーカイ



進行のテレビ静岡・
光田有志アナウンサーと
静岡朝日テレビ・
白木愛奈アナウンサー



懇親会で挨拶する中村泰昌静岡県広告協会理事長



メイン会場（シンフォニー）横の
プレリūdでは
静岡の味の屋台や地酒を提供



エクスカーション

視察見学会

1 静岡市コース

～伝統の技と歴史を堪能！駿河細工と家康公ゆかりの久能山東照宮へ～
参加者数 25名



2 浜松市コース

～モノづくり浜松の歴史と技術に触れる、車歴史館とお菓子工場視察～
参加者数 28名



3 伊豆コース

～情緒あふれる竹林の小径と深海水族館へ。癒やしと風情の伊豆の旅～
参加者数 35名



親睦ゴルフ会

富岳カントリークラブ

富士の麓の絶景が広がる富岳カントリークラブで開催された親睦ゴルフ会には65名の方が参加しました。天候にも恵まれ、最高のコンディションでプレーを楽しみました。



大会役員

特別顧問		鈴木 康 友	静岡県知事	
		難 波 喬 司	静岡市長	
		大 石 剛	(株)静岡新聞社代表取締役会長 静岡放送(株)取締役	
組織委員会（大会役員）	大会会長	大須賀 紳 晃	(株)静岡新聞社代表取締役社長 静岡放送(株)社長	
	大会副会長	小野瀬 雅 久	(株)静岡朝日テレビ 代表取締役社長	
	大会副会長	井 熊 正 浩	静岡エフエム放送(株) 代表取締役社長	
	大会副会長	黒 岩 直 樹	(株)静岡第一テレビ 代表取締役社長	
	大会副会長	谷 口 智 康	静岡放送(株) 代表取締役常務	
	大会副会長	寺 本 政 司	(株)中日新聞社 取締役東海本社代表	
	大会副会長	若 松 誠	(株)テレビ静岡 代表取締役社長	
	大会副会長	二 宮 敏	(株)エイエイピー 取締役本部長・静岡県広告業協会 理事長	
	大会顧問	奈良間 茂	公益社団法人静岡県屋外広告協会 会長	
	大会顧問	八 木 稔	一般財団法人静岡県銀行協会 会長	
	大会顧問	岸 田 裕 之	一般社団法人静岡県商工会議所連合会 会長	
	大会顧問	田 形 和 幸	一般社団法人静岡県信用金庫協会 会長	
	大会顧問	鈴木 政 成	静岡県農業協同組合中央会 代表理事会長	
	大会顧問	川 井 敏 行	一般社団法人静岡県バス協会 会長	
	大会顧問	紅 野 正 裕	沼津商工会議所 会頭	
大会実行委員会	実行委員長		中 村 泰 昌	一般社団法人静岡県商工会議所連合会 専務理事
	副実行委員長		小 阪 秀 彦	静岡放送(株) 取締役 地域ビジネス推進局長
	監 事		松 下 友 幸	静岡商工会議所 常務理事・事務局長
	監 事		西 田 吉 輝	(株)静岡銀行 営業戦略部理事部長
	総 務 部 会	部会長	番 匠 俊 行	NTT西日本(株) 静岡支店長
		副部会長	柴 山 貴 伸	(株)ピーエーシー 代表取締役社長
		副部会長	松 井 敬	はごろもフーズ(株) 代表取締役副社長事業本部長
		副部会長	植 田 光 紀	中部電力(株) 常務執行役員静岡支店長
		副部会長	中 山 明 洋	(株)中日アド企画 東海支社長
		副部会長	林 明 男	(株)三晃社 静岡支社長
	広 報 部 会	部会長	井 伊 正 美	(株)テレビ静岡 取締役
		副部会長	森 一 夫	(株)中日新聞社 東海本社 営業局次長
		副部会長	旗 生 秀 隆	(株)電通東日本 静岡支社次長
		副部会長	浅 場 雅 樹	(株)インクス 代表取締役社長
	式 典 部 会	部会長	西 川 美奈江	静岡放送(株) 地域ビジネス推進局次長
		副部会長	丹 羽 一 成	(株)静岡博報堂 執行役員
		副部会長	小 澤 誠	(株)SBSプロモーション代表取締役社長
		副部会長	中 村 善 重	(株)SBSメディアビジョン 代表取締役社長
	懇 親 会 部 会	部会長	佐 藤 賢 司	(株)静岡朝日テレビ 取締役
		副部会長	細 井 英 久	(株)静岡リビング新聞社 代表取締役社長
	宿泊見学会	部会長	寺 内 邦 彦	(株)静岡第一テレビ 常務取締役
		副部会長	小 林 昭 次	セキスイハイム東海(株) 代表取締役社長
		副部会長	増 田 悠 也	静岡エフエム放送(株) 静岡支社長
		副部会長	浜 林 彰	(株)中部日本広告社 浜松支社長
		副部会長	渡 辺 幸一郎	(株)MISH 代表取締役社長
		副部会長	西 田 高 宏	(株)JTB 静岡支店長
	事 務 局	代表総務	石 部 哲 也	静岡県広告協会 事務局長
		経 理	石 上 聖 子	静岡県広告協会

広告の可能性は十人十色



JAPAN ADVERTISING FEDERATION IN
SHIZUOKA 2026

第74回全日本広告連盟静岡大会 事務局

〒422-8033 静岡市駿河区登呂3-1-1

静岡 新聞放送会館12階

TEL : 054-284-8566 FAX : 054-283-3370